

## 22年度西東京市図書館事業評価

1 基本指標	平成21年度実績	平成22年度実績
市民1人当たりの蔵書冊数(蔵書冊数÷市人口)	3.8冊/人	3.8冊/人
登録率(市内在住個人登録者数÷市人口)	22.2%	21.9%
1日平均貸出冊数(各図書館の1日平均の合計)	8,858冊/日	8,691冊/日
蔵書回転率(個人貸出数÷蔵書冊数)	3.2回	3.1回
市民1人当たりの貸出数(個人貸出数÷市人口)	13.3冊/人	12.9冊/人
登録者1人当たりの貸出数(個人貸出数÷個人登録者数)	45.1冊/人	44.5冊/人

2 重点事業	到達状況
(1) 図書館基本計画・展望計画の推進と事業評価	図書館基本計画・展望計画に基づき、各事業に積極的に取り組み、サービスの向上に努めた。執行した事業の評価を、図書館の自己評価と図書館協議会の二次評価により分析し、今後の図書館事業を取り組んでいく。
(2) 第二期図書館管理システムの運用	自動貸出機の利用方法の周知や案内を行い、前年度より3.9ポイント稼働率が上昇した。来年度は予約棚システムを導入し自動貸出機の稼働率の向上と、カウンター業務の効率化を図る。
(3) レファレンスサービスの拡充	ホームページにあるレファレンス事例紹介は、アクセス数が増加し、Webレファレンスの利用もサービスの向上となっている。レファレンス協同データベース事業の事例公開は多くのアクセスがあり、国立国会図書館より全国的に高い評価を得、礼状を贈られた。
(4) 第2期西東京市子ども読書活動推進計画の策定	「第2期西東京市子ども読書活動推進計画」を策定した。計画期間は平成23年度から平成27年度の5ヵ年。来年度、計画の周知を図ることを目的に記念事業を実施していく。
(5) 西東京市誕生10周年記念事業(郷土の歩み・図書館資料展)	「田無・保谷の歴史と歩みを振り返り、西東京市のまちづくり10年を踏まえ、未来へ向かって飛躍する」この基本コンセプトのもと、武蔵野大学相互協力事業としてインターンシップ5人の協力を得て実施した。図書館が所蔵する地域・行政資料を広く市民に公開し、郷土西東京への愛着と理解を深めることに努めた。
(6) 国民読書年に関する事業の実施	国民読書年事業として、講演会やおはなし会・展示会等を、成人サービス6回、児童サービス13回実施し、市民の読書活動を援助し、参加者からは好評を得た。

# 平成22年度西東京市図書館事業評価総括表

事業名	主要事業	事業実績	図書館評価（一次評価）	評価	図書館協議会評価（二次評価）	評価
1 図書館資料の収集と保存	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な資料要求に応える収集</li> <li>蔵書構成計画の基づく計画的購入</li> <li>資料保存計画の策定</li> <li>規模・機能に応じた資料の分担保存</li> <li>特別整理期間の短縮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体の蔵書構成を検討し、資料費5900万円を100%として、一般書62.5%・児童書19.9%・YA2.1%、レファレンス8.5%・地域資料5.3%・HS資料1.7%の比率で資料を購入。</li> <li>22年度資料購入冊数は34,298冊、全蔵書数に占める新刊書の割合は4.6%（21年度は、35,144冊4.7% 20年度は36,519冊）</li> <li>資料保存計画については、成人サービスにおいて「成人サービス図書資料（一般図書）の保存及び除籍に関する指針」を作成。特別整理期間の短縮については21年度と同じ期間で行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>購入冊数が減少した一方で、除籍資料も少なかったため、蔵書に対する購入冊数の割合が減っている。</li> <li>YAについては当初予算より購入が少なかったため、今後予算執行の適正化を図る。</li> <li>資料保存計画については、一般書の長期保存の基準と保存館の検討を行った。今後他の資料においても検討をしていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>購入冊数の増減自体は、単価や内容の影響を受けるので、むしろ購入金額の増減も見た上で評価したい。厳しい財政状況のなかで、資料購入費の維持に努めていただいたことを評価したい。資料費の確保は、図書館の生命線なので、引き続き維持・増強に努力いただきたい。</li> <li>一般図書の「保存及び除籍に関する指針」の整備は、市民の関心の高いテーマでもあるので、時宜を得た対応である。一層の広報周知に配慮いただきたい。</li> </ul>	B
2 施設・備品の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>保谷駅図書返却ポストの改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保谷庁舎と保谷駅北口図書返却ポストの入れ替え入れ替え後の苦情件数 0件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保谷駅北口図書返却ポストに対する苦情については、保谷庁舎の返却ポストとの入れ替え措置で対応した。</li> <li>施設については、大震災の被害として、芝久保図書館のおはなしコーナーの壁が崩れる、中央図書館の壁にひびが入るなどの被害があったので、改修する予定。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書返却ポストの配置、装置の改善等について、利用者の声を踏まえた対応は評価できる。</li> <li>施設・備品については、今回の震災被害への対応のみならず、今後の防災措置にも一層の留意を払っていただきたい。</li> </ul>	A
3 図書館の情報システムの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>第二期図書館管理システムの管理運用</li> <li>ICタグ資料管理システムの管理運用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館管理システム遠隔修理作業と変更作業16回（21年度25回）</li> <li>図書館電話サービス（CTIシステム）の定期点検2回（21年度2回）</li> <li>ICタグ資料管理システムでは4回（21年度6回）</li> <li>Webサーバネットワークセキュリティ診断1回（21年度3回）</li> <li>自動貸出機稼働率53.8%（21年度49.9%）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各システムにおいてそれぞれセキュリティ上問題となる事項はなし。</li> <li>自動貸出機の紹介をするサインとカウンターでの働きかけを行い、21年度より3.9ポイント上昇した。</li> <li>貸出数の約25%を占める予約による貸出時にカウンター利用があるため、現状での大幅な上昇は難しい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者サイドからは、システムダウンしないことが良いシステムなので、その意味ではきわめて適切な運用がなされたと評価したい。</li> <li>自動貸出機稼働率は、上昇させることだけを目指すのではなく、ほんとうに利用者の便宜性が向上しているかどうかについても引き続き配慮いただきたい。</li> </ul>	A
4 利用者と情報の安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者データの維持管理</li> <li>危機管理</li> <li>個人情報の保護</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理研修回数延べ6回（21年度0回）</li> <li>防災訓練延べ3回（21年度0回・防災検査1回）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報の保護については、特に問題も無く、情報の管理を行なうことができた。</li> <li>全館で危機管理に関する研修を行なう。</li> <li>大震災時には、全館けが人を出すことなく対処した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者情報、個人情報の管理、危機管理への適切な対応については評価できる。情報管理、危機管理ともに職員の意識が重要となるので、日常的な研修・訓練等をさらに強化いただきたい。</li> </ul>	A
5 図書館資料の効率的な提供の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>正確で迅速な予約/リクエスト処理と提供</li> <li>速やかな資料提供のための督促の効率化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間貸出冊数 2,540,432冊（21年度2,584,583冊）</li> <li>予約受付件数 717,165件（21年度 708,693件）提供件数621,737件で提供率は86.7%（21年度86.4%）</li> <li>提供の内借出件数 13,056件で借出率1.4%（21年度2%）</li> <li>1人当たりの貸出冊数12.9冊/人（21年度13.3冊/人）</li> <li>蔵書回転率3.1回（21年度3.2回）</li> <li>長期未返却督促 9,591件・ハガキ枚数 3,603通・予約督促104,930件（21年度10,451件・3,922通・101,251件）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震の影響により開館日時を縮小したため、貸出冊数が減少した。</li> <li>市民1人当たりの貸出冊数・蔵書回転率も多少減少したが、予約の受付件数は増加した。提供率は横ばい状態だが、借出率は前年度より減少したので、自館での提供率が上がったといえる。</li> <li>督促については、メール督促・カウンターでの注意喚起により、ハガキ督促数は減少し、前年度よりさらに役務費の削減につながった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸出冊数、一人当たりの貸出冊数・蔵書回転率等はいずれも前年を少し下回ったものの、依然として全国トップレベルの高水準を維持しており、大いに評価できる。</li> <li>予約受付件数も同規模都市の平均を上回るもので、その提供率の高さも際立っている。図書館の日常的な努力を高く評価したい。</li> </ul>	A
6 市民の読書活動の援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書会等への支援</li> <li>広報誌の発行</li> <li>図書館ホームページの充実</li> <li>国民読書年の関連する事業の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>団体貸出の冊数56,100冊（21年度55,705冊）</li> <li>「図書館だより」年4回発行</li> <li>「広報西東京」掲載回数定例12回、不定期10回（前年度不定期17回）</li> <li>「西東京の教育」掲載 2回</li> <li>ホームページトップページへのアクセス1,289,582回（21年度2,679,921回）</li> <li>資料検索画面へのアクセス数802,817回（21年度788,054回）</li> <li>iモードアクセス回数111,709回（21年度122,662回）</li> <li>ホームページ更新 74回（前年度記録無し）</li> <li>国民読書年事業実施 一般6回 児童13回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>団体貸出の利用は若干増え、前年度並みの支援が行えた。</li> <li>ホームページについては、トップページのアクセス回数は前年度より減少したが、お知らせ等の更新回数が増え、新しい情報の提供が行えた。（アクセス数の減少は設置先データセンターを変更したことによる、セキュリティ対策の変更起因するものです。）</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>団体貸出は、近隣図書館に比べても突出して多く、市民の「読書活動の援助」として大きな効果を発揮している。</li> <li>また、利用者からのリクエストへの対応が迅速である点も大いに評価できる。</li> <li>館報「図書館だより」は、図書館来館者を中心とした広報になるが、非来館者に対しては「広報西東京」や「西東京の教育」などが有効であり、特に「広報西東京」への記事掲載回数（不定期10回）が多かったことは評価できる。</li> </ul>	A
7 成人サービスの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>蔵書構成のバランスに配慮した資料収集</li> <li>成人対象の朗読会、講演会の開催</li> <li>世代別、対象別サービスの調査・研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般図書購入冊数24,233冊・蔵書冊数461,766冊・購入率5.25%（21年度24,409冊・454,114冊・5.37%）</li> <li>朗読会開催回数5回・参加者数256人（21年度3回・185人）</li> <li>除籍冊数26,713冊（21年度52,976冊）</li> <li>講演会開催回数1回・参加者数61人（第2回は地震により中止・21年度2回・37人）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>蔵書更新については緊急雇用創出事業の終了に伴い、書庫資料の除籍処理が減少したため、購入率は減少した。</li> <li>行事などへの取り組みは広報の強化などにより、参加者の増加など一定の効果を生むことができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>購入率の減少は、蔵書数との関係によるので、むしろ購入冊数の絶対量が問題である。昨年度から100数十冊の減少では横ばいと見るべきで、評価したい。</li> <li>講演会等は、利用者の関心の高いテーマを選び引き続き開催していただきたい。</li> <li>世代別、対象別にどのようなサービスが望ましいか引き続き調査願いたい。</li> </ul>	B

事業名	主要事業	事業実績	図書館評価（一次評価）	評価	図書館協議会評価（二次評価）	評価
7-1 一般図書サービスの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用しやすい書架づくり</li> <li>・年間計画の作成、計画に基づく選書・保存等</li> <li>・成人向けパンフレットの発行</li> <li>・同一テーマによる全館統一資料展示</li> <li>・原爆小文庫のあり方検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用状況から開架書架の除架処理を行なう。</li> <li>・今月の本棚発行回数12回（21年度12回）</li> <li>・統一展示展示冊数650冊・貸出冊数687冊・貸出回転率1.06回（21年度1,054冊・1,657冊・1.57回）</li> <li>・成人サービス図書資料の保存及び除籍に関する覚書を作成</li> <li>・原爆小文庫に関して保存方法の検討を行なう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用しやすい書架作りとしてシニア支援コーナーを柳沢図書館に設置。11月から述べ952回貸出。</li> <li>・統一展示は展示テーマにより利用率が変化するため、テーマについて研究と、利用促進策が必要である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書架スペースの絶対的な不足が響き、スッキリした見やすい棚にはなっていない。除架作業と同時に棚の新たな増設確保についても考慮いただきたい。</li> <li>・統一展示については、より魅力的なテーマを選び、貸出回転率に結びつくような工夫を望みたい。「シニア支援コーナー」は適切な企画で大いに評価したい。</li> <li>・原爆小文庫は、西東京市の重要なコレクションなので、充実を図ると共に一層の利活用の方途を研究いただきたい。</li> </ul>	B
7-2 視聴覚資料サービスの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CDの計画的収集・提供</li> <li>・寄贈映像資料の提供</li> <li>・録音資料の収集範囲拡大及び管理の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落語、朗読など非音楽資料を重点的に452タイトル購入。</li> <li>・CDの貸出CDの貸出数は94,225件（21年度102,568件）</li> <li>・寄贈映像資料の提供は未実施。</li> <li>・映像資料に関する検討は未実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落語、朗読を中心に収集し、過去の不完全なデータの整備を行なった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「非音楽資料」に重点化した収集は、西東京市図書館の得意分野を作っていくうえでも重要な方針の一つ。「強み」として伸ばしていただきたいと同時に、余力があれば、市民の要望の高い分野の品揃えにも配慮いただきたい。</li> <li>・映像資料に関する検討を引き続きお願いしたい。</li> </ul>	B
7-3 逐次刊行物サービスの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの整理</li> <li>・提供・保存の検討</li> <li>・収集内容の見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市販雑誌マークの導入</li> <li>・保存期限の延長と保存館の決定</li> <li>・雑誌貸出冊数 125,240冊</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市販雑誌の書誌データマーク（特集記事掲載等）導入によりデータベースとしての情報量が増えたことにより、資料の活用度が向上した。また、全館平均で作業時間が1館1日当たり約1時間減少した。</li> <li>・保存期限の延長により、利便性が向上したが、保存書庫の整備が必要である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保存年限の延長は、雑誌バックナンバー利用者にとって待望の措置であり、評価したい。なお、雑誌種類数（タイトル数）は、『望ましい基準』や近隣図書館に比べても少ないので、充実を図っていただきたい。</li> <li>・保存書庫の整備については、本市図書館の最大の課題なので、実現に向けての具体的な検討に着手いただきたい。</li> </ul>	B
8 レファレンスサービスの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民の調査・研究活動の援助</li> <li>・参考資料の体系化</li> <li>・ビジネス支援サービスの充実</li> <li>・ホームページでの事例紹介</li> <li>・Webレファレンスの実施</li> <li>・利用者用インターネットの適正な運営</li> <li>・レファレンス協同データベース事業の参加と事例公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レファレンス資料購入冊数654冊・蔵書冊数24,798冊（21年度565冊・23,880冊）・蔵書増加率1.15倍、蔵書新鮮度2.6%</li> <li>・レファレンスカウント件数8,336件（21年度8,554件）</li> <li>・レファレンス記録数110件（21年度78件）</li> <li>・ホームページ事例公開件数74件（21年度156件）、累計230件・ホームページアクセス件数10,142件（21年度2,357件）</li> <li>・Webレファレンス受付件数41件（21年度20件）</li> <li>・利用者用インターネット機利用者数14,368人・利用回数23,504回（21年度13,909人・23,121回）</li> <li>・レファレンス協同データベース事業公開事例数79件（21年度50件）、累計138件、アクセス数31,292件（21年度6,626件）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レファレンス資料費は前年度と同額であったが、購入冊数は前年度より単価の低い資料を多く買ったため1.15倍と微増した。</li> <li>・レファレンスカウント件数は2.5%減。レファレンス記録数は1.39倍に増加、件数は少なくなったが記録に値する事例が増加し活用度が向上した。</li> <li>・ホームページ事例アクセス件数は4.3倍に増大し利用度は高くなった。</li> <li>・Webレファレンス受付件数は月平均4.5件、前年度の2.0倍となり、専門的知識を必要とするものや読書相談的なレファレンスが寄せられるようになった。</li> <li>・利用者用インターネット機の利用者数は前年度の1.03倍・利用回数は1.01倍と微増し、運営上の問題は特に無かった。</li> <li>・レファレンス協同データベース事業のアクセス数は4.7倍に増大し、参加館539館中53位となり、国会図書館から全国的に高い評価を受け礼状を贈られた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レファレンスカウント件数の増減よりは、内容の充実度が重要なので、より高度な質問回答が目立ったことを評価したい。また、一般利用者にとっては、まだ図書館に尋ねる行為自体が普及しているわけではないので、より「尋ねやすい雰囲気」を演出していく工夫が望まれる。</li> <li>・レファレンス協同データベース事業での成果は、大いに評価されるべきである。</li> </ul>	A
9 児童サービスの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な資料収集</li> <li>・学校・公共施設・地域等との連携・環境整備</li> <li>・読書案内を作成し、読書意欲の増進に努める。</li> <li>・地域活動ボランティアの支援</li> <li>・おはなし会ボランティアの育成・受入れをはかる。</li> <li>・講演会・講座の開催</li> <li>・パンフレット・推薦図書の発行</li> <li>・読書活動の推進（おはなし会等）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童書購入冊数8,261冊（21年度9,043冊）・蔵書冊数181,366冊（21年度178,786冊）</li> <li>・除籍冊数4,272冊（21年度8,423冊）更新率4.6%（21年度5.3%）</li> <li>・団体貸出利用者数368箇所（21年度359箇所）・貸出数53,370冊（21年度52,825冊）</li> <li>・発行物「ドキドキわくわく1ねんせい号」「夏休み・すいせん図書（小学生向）（中学生向）」「はじめまして・赤ちゃんにおくるえほん30冊」「先生向け図書館案内」各1回「ドキドキわくわく新しい本」年6回（回数は昨年度と同じ）「宿題のしらべ方」改訂版作成</li> <li>・講師派遣事業数12回（21年度16回）・共催事業数32回（11回）</li> <li>・おはなし会養成講座の実施回数3回・参加人数11名（延べ31名）</li> <li>・おはなし会の実施回数 288回（21年度 278回）・実演者数 8団体・23人（21年度 15人）</li> <li>・講演会開催回数 1回・参加者数 96人（子どもの読書勉強会 共催）</li> <li>・講座開催回数 4回（21年度 9回）（2回は地震により中止）・参加者数 129人（21年度 197人）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童書の更新率は、除籍冊数の減少により、昨年度を下回った。これは、買い替えの実施が不足したことに要因がある。</li> <li>・団体貸出については、公共施設の利用者数が増加した。これは学校のクラス数増加などによる。貸出数も増加した。</li> <li>・講師派遣事業は、公民館の自主サークルや児童センターなどの要望があり、実施した。</li> <li>・第2期おはなし会ボランティアの養成講座を実施し、新たに9名のボランティアが11月より活動を開始した。</li> <li>・紙芝居講座（全2回）を予定していたが、地震により中止となった。来年度に実施する予定である。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童書については、新刊の補充も重要であるが、何十年も評価を保ち続けたロングセラーの買い替えがさらに重要である。新訳、改版はもとより、傷んだ本の重刷等、常に状態の良いものを提供するべきである。</li> <li>・各種共催事業への講師派遣など活発に行っていることは評価できる。</li> <li>・おはなし会の実施も昨年度より増加していることを評価したい。</li> <li>・学校への団体貸出の増加など、学校図書館との連携が進展していることを特に評価したい。</li> </ul>	A

事業名	主要事業	事業実績	図書館評価（一次評価）	評価	図書館協議会評価（二次評価）	評価
10 ヤングアダルトサービスの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画的な資料収集</li> <li>YA世代との共同編集の検討、計画策定</li> <li>職場体験の受け入れ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間受入資料数 1,114冊（21年度 1,314冊）</li> <li>共同編集検討会議 5回</li> <li>共同編集会議・編集者募集要領を作成し、公募、選定し共同編集者3名を決定。</li> <li>3月に行う予定だった事前説明会は、地震のため延期し、来年度に行う。</li> <li>「CATCH」発行回数 3回</li> <li>職場体験受入校数 11校・受入人数 79人・延べ日数 56日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各館の状況を考慮して、資料を選定し購入したが、予算に対して適的な資料購入ができなかった。今後適正を見極め、計画的な収集を行いたい。</li> <li>今年度は、共同編集の実施に向けて準備の年となった。編集者も決定し、平成23年度7月発行予定の「CATCH」から実施する。</li> <li>職場体験については、「職場体験マニュアル」に基づいて、各館の受け入れ体制の均一性を図った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>YA本の購入冊数が前年度を下回ったことは残念に思われる。利用動向を踏まえ、適切な蔵書構成の整備に努めていただきたい。</li> <li>しかし、図書館との関係の少ないこの世代層を指導し、「CATCH」共同編集の試みに着手できたことは画期的な成果である。</li> <li>職場体験受入について、業務多忙の中積極的に対応し受け入れ人数が増加していること、マニュアルを整備したことを評価したい。</li> </ul>	A
11 地域・行政資料サービスの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の収集・保存・提供</li> <li>関連機関等との協力</li> <li>地域資料整備事業の実施</li> <li>写真展図録の作成販売</li> <li>歴史的資料の修復</li> <li>10周年記念事業の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間受入れ資料数3,583冊(平成21年度3,874冊)</li> <li>西東京市関係新聞記事年間作成データ数5,418件(平成21年度5,355件)</li> <li>ホームページ新聞記事索引アクセス件数3,638件/月平均303.2件(平成21年度3,087件/月平均257.3件)</li> <li>地域・行政資料入室者数1,516人(平成21年度1,760人)</li> <li>レファレンス受付・回答件数1,659件(平成21年度2,101人)</li> <li>庁内刊行物の移管資料数1,188件(平成21年度1,245件)</li> <li>庁内レファレンス受付・回答件数54件</li> <li>地域資料(写真)整備件数 田無市関係(335冊)、西東京市(23冊)合計358冊</li> <li>写真展図録発行部数2,000部、図録販売部数227部</li> <li>写真パネル貸出件数6団体127点(平成21年度11団体311点)</li> <li>修復資料「田畑其外直段書上帳」5冊 複製本版5冊 CD-ROM版2セット</li> <li>武蔵野大学相互協力事業として「郷土のあゆみ図書館資料展」の実施。インターシップ5人協力。展示資料数620点、参加者数152名、満足度84.8%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の収集・保存・提供 資料総数は84,000冊を超えた。新聞記事データ総数は73,000件となった。ホームページでの新聞記事索引アクセス件数は18%増加し、3,638件となった。地域資料入室者数は前年比-14%、レファレンス件数は前年比-21%になった。ホームページによる情報提供などの拡大が要因の一つとして考えられる。市外、地方からの来室、問合せに対応しての、探索、調査件数は増加し全国的なニーズが高まったとも考えられる。これについては、今後の検討課題とする必要がある。</li> <li>関連機関等との協力 庁内レファレンス受付・回答件数集計を開始、調査事例を記録し要望を業務に取り入れるよう努めた。相互協力により情報交換体制づくりを進めた。</li> <li>地域資料整備事業の実施 緊急地域雇用創出事業を活用し、未整備分の写真資料を整備した。これにより、写真アルバム総数は933冊となり、情報が拡大した。</li> <li>写真展図録の作成販売 写真展図録を市内学校、関係機関等へ配布するとともに、地域・行政資料室及び両庁舎情報公開コーナーで販売し、写真パネルの利用促進と市民の郷土西東京への関心を高めることができた。</li> <li>歴史的資料の修復 これまで年次事業として計画的に修復を行ってきた「検地帳」と併せて検証し、郷土史研究の上で新たな情報を得ることが可能となった。</li> <li>10周年記念事業の実施 武蔵野大学インターシップ5人の協力を得て10周年記念事業を実施した。歴史的資料を含めて地域・行政資料の公開が進んだ。同時に市民からの情報提供を得ることが出来た。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>西東京市の地域・行政資料の収集・保存・提供は、西東京市図書館だけしかできないことであり、その意義、重要性は言うまでもない。この分野に関しては、どこに委ねることもできないことなので、継続的な努力が望まれる。しかし、現状では資料の保管スペースが絶対的に不足しており、早急に解決のための方策を検討いただきたい。</li> <li>庁内レファレンスの件数増加は評価できる。引き続き、このサービスの広報普及に期待したい。</li> <li>市の「記憶」を可能な限り収集保存することが使命である。写真アルバムの整備はその意味で評価されなければならない。さらに映像資料などの非図書資料の記録についても範囲を広げることを考慮すべきであろう。</li> <li>写真展図録の作成販売は、図書館が集めた資料の活用・普及という点でも、今後とも積極的に取り組むべき活動分野である。</li> <li>郷土史資料の修復は、計画的に引き続き推進することが望まれる。</li> <li>10周年協賛イベントとして、図書館に相応しい企画を実施し、地元大学とのコラボレーションで実現したことは大いに評価できる。</li> </ul>	B
12 ハンディキャップサービス(図書館利用に障害のある人びとへのサービス)の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の拡大</li> <li>宅配サービス拡充の検討</li> <li>音訳図書・点訳図書の作成と情報提供</li> <li>デジター編集者の育成及びデジター資料の作成</li> <li>多文化サービスの充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハンディキャップサービスPR郵送アンケート(視覚障害者で手帳1、2級対象者240名)回収率28.3%、サービス希望者新規19名(無記名者含む)</li> <li>年間新規登録者19名(アンケートによる新規登録10名)、合計74名(21年度55名)</li> <li>宅配件数81件(21年度67件)</li> <li>デジター図書作成タイトル数24</li> <li>点訳資料作成タイトル数16</li> <li>デジター図書・雑誌貸出タイトル数1,084(21年度1,058)</li> <li>点訳資料貸出タイトル数64(21年度56)</li> <li>広報・情報・新刊等テープ作成回数85回、延べ利用者2,454人(21年度82回、2,360人)</li> <li>デジター編集者養成8名(累計34名、音訳者総数67名の50.7%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>視覚障害者1、2級対象者240名へのハンディキャップサービス郵送アンケート(障害福祉課協力)により新規登録者が拡大した。</li> <li>宅配サービスについてのアンケートも同時に実施し、23年度に行う来館者アンケートの結果を総合して、宅配サービス拡充の検討を行う。</li> <li>音訳図書は、テープ図書からデジター図書への移行期にあたり、デジター所蔵数(購入含む)が100点を突破した。</li> <li>デジター機器の整備と編集者の増員により製作環境が向上した。一方、リクエスト受付から製作・提供までの時間短縮が課題である。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内視覚障害者へのアンケートを実施し、ニーズ把握の努力をした結果、新規登録者の大幅な増加、宅配サービス件数、デジター図書の増加などハンディキャップサービスの充実が図られたことは特筆に値する。</li> <li>またデジター編集者養成など地道な環境整備も評価したい。</li> <li>「図書館利用に障害のある人びと」として、日本語の使用が不十分な在外国人へのサービスがある。NPO法人西東京市多文化共生センターなど市の関連部署との連携を図りつつ、サービスの充実強化を図っていただきたい。</li> </ul>	B
13 子育て支援事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康課保健係との連携及び事業の継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3・4ヶ月時健康診査の実施回数 30回(21年度34回)</li> <li>3・4ヶ月時健康診査の対象者 1,708人(21年度1,584人) 絵本と子育て事業(絵本バッグの配布・絵本の読み聞かせの実施・図書館やおはなし会のPRなど)実施者1,679人(21年度1,577人) 絵本バッグ配布率 98%(21年度 99%)</li> <li>実施回数の減少(32回 30回)により、1回あたりの参加者数は増加した。平均参加人数 56.0人(21年度 49.3人)</li> <li>担当職員延べ人数 33名(21年度 64名) 読み聞かせ講師参加延べ人数 32人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口の増加により対象者数が増加した。</li> <li>配布数は、ほぼ目標を達成している。配布後は図書館利用者へと結びつけるPR方法を検討により充実を図ることが必要である。</li> <li>事務の効率化を図り、担当職員を2名体制から1名とした。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>いわゆる「ブックスタート」とされる活動であるが、本市の場合は、健康課保健係と連携し図書館が進めているところが評価できる。多くの「ブックスタート」がスタート時点のピンポイントで止まってしまう点が課題となるが、その後の継続的な読書に結びつくよう活動の視点を変えていく必要がある。</li> </ul>	A

事業名	主要事業	事業実績	図書館評価（一次評価）	評価	図書館協議会評価（二次評価）	評価
14 子ども読書活動推進計画に基づく事業実施	・「第2期西東京市子ども読書活動推進計画」の策定	・策定懇談会委員 13名。 ・策定懇談会 6回開催。 ・起草委員会 5回開催。 ・パブリックコメント（市民意見提出手続き制度）意見4人21件。 ・「第2期西東京市子ども読書活動推進計画」を策定。	・「第2期西東京市子ども読書活動推進計画」（平成23年度～平成27年度）を策定した。 ・「第1期西東京市子ども読書活動推進計画」の中間報告の課題として挙げられた「実施計画」を具体的に作成した。 ・しかし、市民への周知が充分でなかった。	B	・第1期の活動を踏まえ、「第2期西東京市子ども読書活動推進計画」を作成し、実施計画や具体的な目標を設定したことは評価できる。 ・ただし、推進計画自体が市民に十分周知されておらず、今後は広報周知にも配慮いただきたい。	B
15 類縁・関係機関との連携	・多摩六都及び四市行政連絡協議会協力事業の推進 ・他図書館及び公共施設との協力事業の推進 ・武蔵野大学協力事業の推進	・多摩六都図書館担当者会議、全12回開催。「多摩六都図書館ニュース」年4回発行。 ・インターンシップ生の受入れ 6名。 ・武蔵野大学図書館利用カードの貸出回数104回（21年度101回）。 ・大学主催の講座への講師派遣 1回。	・近隣の公共図書館との連携による協力体制および武蔵野大学等との連携は、今まで同様に行った。	B	・近隣の公共図書館及び大学図書館との連携について、市民のニーズを把握した上で、さらに強い協力体制を築くために引き続き努力していただきたい。 ・多摩六都科学館との連携を図っていくことが望まれる。	A
16 職員研修	・課内研修の計画的な実施 ・外部研修への参加等による資質の向上	・年度始めに新人嘱託員の研修を行った。 ・特別整理期間中に「クレーム対応」および「危機管理」のテーマで各館対応で職員嘱託員の研修を行った。 ・課内研修については、児童、障害者サービスは年間研修スケジュールを作成し計画的に実施できた。 ・庁内研修による「接遇研修」を行った。 ・外部研修については、都立図書館の研修を中心に参加した。	・課内研修は徹底して行えたが、課外研修は思うように参加できず不十分であった。研修のための時間確保が課題である。	B	・職員の技能・専門的知識の向上が、より高度な図書館サービスのためには必須なので、外部・内部を問わず研修機会を増やし、各人の研修受講を強く求めたい。 ・特に、図書館組織としての計画的な研修体制を整備し、業務としての位置付けを図っていただきたい。	B
17 図書館サービス評価の実施	・事業評価の実施及び公開 ・利用者満足度調査の実施	・公開時期 6月予定 調査 4月予定	・実施したが、予定通りに公表が行えなかった。評価の内容、公表の時期については再考する。	B	・行政サービスの一環である図書館は、定期的な外部評価を実施し、利用者・市民に公開していくことが求められるが、その点では、本市図書館はいち早く業務評価に着手し、取り組んだことを大いに評価したい。 ・利用者満足度評価については、どのような方法でやるのが最も効果的か、慎重に検討することが必要である。	B

評価…… A 事業計画にある施策事業を概ね達成した。  
 B 事業計画にある施策事業を一部達成し更なる充実を図っていく。  
 C 事業計画にある施策事業を継続し実施していく。  
 D 事業計画にある施策事業の一部は進展が見られるが更なる充実を図っていく。  
 E 事業計画にある施策事業の進展が見られない。